



にゅとぴあ岸和田

岸和田市国際親善協会だより 2005. 4. 15 No. 63

国際交流サロンで

国際 理解

米山記念奨学会
奨学生との交流会



▲前列、岸和田市が招待した姉妹都市のマラソン選手、随行者、通訳。後列「米山奨学生」



留学生出身国のお菓子を食べながら交流 ▲

2月14日午後、浪切ホールにて米山記念奨学会からの奨学金を受けた主にアジア圏からの留学生との交流会が開かれました。この交流会の参加者の出身国は中国、韓国、台湾、バングラデシュ、ベトナム、マレーシア、内モンゴルです。午前中、修了式を済ませて、引き続き交流会に参加して下さいました。日本側からはロータリークラブの会員の方、和泉高校生、コーラスグループのメンバー、次の日開かれた国際マラソンの関係者の方々及び親善協会会員計105名です。それぞれ各テーブルに分かれ協会員を中心に座を進めました。テーブルの上には各国の郷土のお菓子がとところ狭しと並べられ、自己紹介に始まり和気藹々と時間はアツという間に過ぎていきました。会話が盛り上がった頃、台湾の皆様による合唱、各テーブルからの報告と続きます。始めは、どれだけ日本語だけでコミュニケーションが

とれるかなと多少心配していたのですが、全くの杞憂に終わりました。私のテーブルについて中国の男性はアクセントを全く感じさせず、もし知らないで話していたら日本人と信じていたことでしょう。専門分野の学習に加えての日本語習得ですから彼の努力は並大抵のものではなかったと推察いたします。

今回このような交流がもたれたのは初めてのことですが、いろいろな機会に直接各国の方々とface to face の機会を持てれば、国際理解も深まることでしょう。

なお私にとりまして、今回思いがけない出来事がありました。大阪の国際交流センター(アイハウス)で日本語クラスのボランティア

をしておりました際、クラスに参加していただいた中国からの女性と久々の再会があったのです。このような出会いがありますと本当にうれしいものです。「ボランティアやってよかったなあ」と改めて思いました。世間は狭いといいますが実感いたしました。今回参加されました皆様といつかどこかでまたお会いできれば願っております。

最後に、米山記念奨学会につきましては、今回私は初めて知ったのですが、HPに詳しい情報がありますのでそちらをご覧ください。(福島綾子)

※今回の国際交流サロンは、ロータリークラブ全面協力のもと実現しました。

米山記念奨学会ホームページ
<http://www.rotary-yoneyama.or.jp/>



▲あいさつをする信貴会長